

日程 平成 29 年 12 月 9～10 日 (富士山) 雪上訓練

撮影者 田口

12/9 秋葉原・荻窪＝馬返し－佐藤小屋－六合目－雪上訓練場－佐藤小屋（泊）



001 吉田口登山道

標高 1,430mの馬返し駐車場で集合、冬晴れの凜とした大気に包まれた、富士山講の長い歴史のある樹林帯の山道をゆっくり 2,230mの佐藤小屋目指し登っていく。朽ち果てた浅間神社や廃墟となった茶屋が往時を偲ばせる。

002 恰好の訓練場を求めて

五合目の佐藤小屋は文字通り、天と地の境。小屋の上は森林限界を越え、わずかな灌木と一面の火山礫の世界が広がる。ヘルメット、ハーネス、ピッケルなど訓練装備を整え、深々とした雪面を求め、新雪の積もった登山道に行く。



003 まずアイゼン歩行から

六合目付近で手ごろな20度程度の緩斜面の吹き溜まりで訓練をすることに。リーダーの懇切な解説を聴き、ピッケル操作、アイゼン歩行からスタート。

004 滑落停止出来た？

ピッケルを使った滑落停止、ロープワークのあと、隣の硬めの斜面でアイゼン歩行、滑落停止の復習。身体を横たえ、素早く身体を回転させ、ピッケルのピックを雪面に突き差し、両膝下を上げて停止する動作を繰り返し練習。



005 影富士

訓練を終え、下山開始。鮮やかなブルーの水を湛える山中湖が望める。下山路から山中湖方面に巨大な富士山の黒い影が映る。初めて目にする「影富士」に興奮。15時を過ぎると早くも冷たい風が吹き付けてくる。



001 朝焼け

下弦の月が浮かび晴れ渡る空のもと、未明に佐藤小屋を発ち、六合目で朝日を望む。相模湾から丹沢、奥多摩、奥秩父、八ヶ岳、北アルプス、南アルプスと、素晴らしい眺望が味わえた。

002 七合目付近の岩場

六合目は雪もあまりない火山礫で埋め尽くされた幅の広い夏道を歩く。七合目辺りからは傾斜も増し、新雪の付いた岩場の道に変わる。昨日の訓練のポイントを思い起こしつつ、ピッケルを支えに、アイゼンを引っかけないように、注意を配りながら、登りつめていく。



003 赤い鳥居の下で

急な傾斜の道を登り、遙か上に見えた本七合目の赤い鳥居が目印の山小屋、鳥居館にようやく到着。標高 2,900mの今回の最高地点だ。小屋には風紋の付いた雪が吹き溜まっていた。時折強い風の吹くなか、絶景を楽しみ、下山。

004 冬山ならではの醍醐味

花小屋脇から雪に埋もれた吉田大沢を下る。膝下までズブッと沈む、傾斜のついた広い雪面を佐藤小屋上の六角堂目指して降りていく。視線は遠くにおき、バランスを崩さないように注意。冬山ならではの野趣に富んだ素晴らしいウォーキングを楽しめた。



005 雪煙舞う、時々、ブリザード風

吉田大沢では何度も強風に見舞われる。耐風姿勢をとるほどではないが、上から叩きつけるような雪交じりの風が襲ってくる。さすがに富士山である。短時間とはいえ、ブリザードのごとき烈風だ。大沢を六合目まで下り、昨日の訓練場の脇を經由して、山中湖、河口湖、御坂山地、遠方の山々の風景を眺めつつ、佐藤小屋に向かった。